

## 母子施設部会

### これから母子家庭の 子どもたちの未来を考える職員研修会

9月26日(月)、「貧困母子家庭における子どもの教育の現状と課題」というテーマで、職員研修会を大阪北ロータリークラブとの共催で開催しました。

昨今、母子家庭の中には、DVや仕事に追われるなどのさまざまの困難が原因で、子どもへのしつけを含めた「家庭内教育」の不足がその後の学習環境に影響を及ぼしているといった課題があります。

中でも、子どもの学習意欲の低下は深刻です。講義では「子どもは他人の期待する存在になろうとするあまり、自分らしさを無くし、結果的に向上心が失われることがある」と、子どもの心の特徴にふれ、「意欲があつても低所得が原因で、子どもに十分な教育費をかけることなども、意欲向上を阻害しているのではないか」など

ど、現代社会の構造的な問題についても指摘しました。  
この問題に対しても母子生活支援施設には、子どもだけでなく、母親にもアプローチし、今後の「生活の質」(Quality of Life)を高めていくために、家庭全体を支援していく専門性が求められていることが明らかになりました。

子どもたちの学習意欲は、自分でしっかりと見てくれる保護者・職員のいる環境で高められていいくものであることを確認し研修を締めくくりました。

(お礼)大阪北ロータリークラブ様から母子施設部会に対しまして学習用具等の寄贈をいただきました。

### 震災から5年。 東北の母子生活支援施設を見学

9月30日(金)～10月1日(土)、

府外研修(宮城県)に施設職員16人が参加しました。

施設見学では、「仙台つばさ荘(菅田賢治施設長、全国母子生活支援施設協議会会長)」「仙台むづみ荘(長田伸一施設長)、「宮城県さくらハイツ(渡部秀樹施設長)」を訪ねました。各施設



仙台つばさ荘の施設前にて

頑張って  
います!

## 社会福祉法人の地域貢献 「福祉施設の強みを活かした 物品提供による生活困窮者支援」

社会福祉法人の強みを活かし

たワンストップの総合生活相談

「生活困窮者レスキュー事業」で

は、DV被害者や刑余者など、

住居は確保できいても生活に

必要な生活家電等が揃わない場

合に、福祉施設の利用者や地域

から提供のあつた物品を有効に

活用しています。

社会福祉法人つくし会特別養

護老人ホーム萱振苑(八尾市)で

は、在宅介護サービスの利用者

が入院等により転居する際に、

居宅にあつた家電製品を譲り受

けたり、施設近隣の民生委員か

らの寄付物品を保管し、支援に

活用しています。

また、法人内の職員会議でこ

のよう取り組みを紹介したこ

とで、職員の間に協力の輪が広

がり、各家庭で余っている日用

品等も集まり、支援に活用して

活用しています。

3施設とも震災の影響はあま

り受けなかつたものの、入所者

の中には震災がきっかけで夫婦

関係が悪くなり、DVに至つて

入所されるケースもあるそうで

す。自然災害が我々の生活に与

える影響。施設の役割を見つめ

なおさきつかけとなりました。



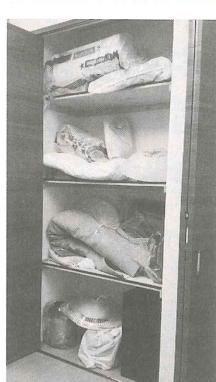
高松達朗CSW  
写真付きで  
用し、施設  
が保有して  
いる物品を  
活用しています。



萱振苑のコミュニティソーシャルワーカー(以下CSW)

の高松達朗さんは、「大阪しあわせネットワーク支援システム」の「支援物品検索機能」を活

用します。



萱振苑内の物品保管場所 布団や電気の  
かさが綺麗に整頓されています

この機会に是非ご活用ください。

◆大阪しあわせネットワーク支援システム  
<https://osaka-soudan.jp/ssss/user/login/>